

学部 / 看護専門領域 / 看護の実践 科目コード：120413 <b>統合実習B</b> Integrative Practicum B (Continuing Nursing Care)					
担当教員	北山 幸枝、牧野 智恵、村井 嘉子、松本 智里、南堀直之、原子裕子、大西陽子、瀧澤理穂				
実務経験					
開講年次	4年次前期	単位数	1	授業形態	実習
必修・選択	必修	時間数	30		
Keywords	継続看護、外来看護、看護連携、チーム医療、地域医療連携、保健・医療・福祉体制				
学習目的・目標	<p>【学習目的】          外来をはじめとする継続看護の実践から、人々の健康生活を支援する保健・医療・福祉体制の実際を理解し、チーム医療の中で看護師としてのメンバーシップを実践する能力を養う。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する人々が、健康の保持・増進のために日常生活や社会生活をどのように調整しているかについて、受診行動やその背景を通して理解することができる。</li> <li>2. 外来看護の実践を通して継続看護の現状および保健・医療・福祉体制を理解し、地域医療連携における看護の役割と機能を述べることができる。</li> <li>3. 健康の保持・増進、治療、回復において、様々な役割・機能を担っている医療関係部門（者）の実践を通して、チーム医療を行う上での看護の独自の役割を述べるができる。</li> <li>4. 継続して健康管理が必要な人々の保健・医療・福祉に対するニーズ、健康観や健康問題への対処方法を把握し、社会資源の活用方法や地域医療連携のあり方を述べるができる。</li> </ol>				
授業計画・内容					
回	内容				
	<p>1日目：ガイダンス、講義、グループディスカッション、実習計画立案          講義を通して、退院調整・退院支援についての理解を深める。          退院後、地域で生活する人々の健康の保持・増進のために、どのような継続看護が必要かを考え、看護を実践する上でのチーム医療、地域医療連携、看護連携のあり方と機能について概要を知る。          各自、外来実習と部門実習の実習目的、内容を決定し、実習計画を立てる。          （部門：栄養指導部、放射線部、訪問看護部、内視鏡室、地域連携室、透析室、外来化学療法室、リハビリテーション室など）</p> <p>2日目：実習計画立案、実習施設でのオリエンテーションおよび打合せ          継続して健康管理が必要な人々の保健・医療・福祉のニーズを把握するための視点を明らかにする。          文献検討やグループディスカッションを通し、各自の実習目的、目標をより明確にする。          各自の実習目的や内容に沿って、担当予定患者の情報収集等を行い、実習計画を立案する。</p> <p>3、4日目（5、6日目）：外来診療科および部門実習／文献を用いた課題レポート          外来看護実践を通して、継続して健康管理を必要とする人々が日常生活や社会生活をどのように調整しているかを理解し、継続看護の視点から看護を実践する能力を養う。          また、それに関わる多種多様な職種の役割を理解し、チーム医療を実践する上での能力を養う。</p> <p>7日目：グループディスカッションおよび実習報告会          事前学習や実習を手がかりに、チーム医療を行う上での看護の役割と地域医療連携のあり方について学ぶ。</p>				
教科書	系統看護学講座 専門5 成人看護学総論（医学書院）				
参考図書等	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理（医学書院）				
評価指標	実習を通じた学び・実習への取り組み（態度・姿勢）40%、実習内容を踏まえた内容のレポート60% 実習・グループディスカッション・報告会への参加状況、実習中および実習終了後に提出するレポートの評価点を合わせて評価する。 ※ 実習科目であるため、出席の際に実施した内容を含む課題に対する配点が大きい。				
関連科目	成人看護学実習A、成人看護学実習B、老年看護学実習、在宅看護学実習、地域看護学実習、看護管理学				
教員から学生へのメッセージ	4年間の既習内容、実習経験すべてを繋ぎ合わせる（＝統合）実習です。 その日に出逢う外来患者とコミュニケーションをとりながら実践しますので、自身の体調や学習等の事前準備を万全にして、積極的に取り組んでください。				